

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

タイトル：「移民／難民のシティズンシップ—国家からの包摂と排除をめぐる制度と実践—」
(平成 23 年度第 1 回研究会)

日時：平成 23 年 4 月 9 日（土曜日）午後 1 時より午後 6 時半

場所：AA 研マルチメディア会議室(304)

報告者名（所属）：**報告 1** 山崎望（AA 研共同研究員，駒澤大学）

「citizenship 概念の歴史的展開：政治共同体の行方をめぐって」

シティズンシップ概念は歴史的にどのような発展を見せ、現在どのような論点をめぐり展開がみられるのか。本報告では、本共同研究課題における議論全体の前提ともなる、こうした理論的枠組みについて整理と検証を行った。共同体の構成員資格として、また経済活動の自由をめぐり、西洋を中心に古代から発展してきたシティズンシップ概念は、グローバル化や新自由主義経済などの影響を受けて、現代では多様な方向性に議論が拡張される傾向にある。政治参加をめぐる共和主義と共同体論などの間で論争がみられる一方で、市民であることと政体の構成員資格とを切り離して考える「脱国民化」の視点も現れている。後者では、ナショナルな枠組みを超えたリージョナル、トランスナショナル、ディアスポラなシティズンシップという考え方が孕む可能性も指摘されている。これらは従来のシティズンシップ概念が、マジョリティ集団を想定した権力性を包含していたとの問題点に、見直しを迫るものである。多文化主義に基づくデニズン概念の創出などは、マイノリティの権利拡充のための現実主義的対応ともいえよう。一方で政治共同体として国民国家を軽視することには慎重な議論もみられ、ポストコロニアル的な新展開への期待を過大評価とする論者もいる。報告者はこうしたシティズンシップ概念の多義的な発展を概観した上で、いずれの議論においてもシティズンシップの内側と外側を分ける境界線が形成され、その内側への包摂と外側への排除が生じてしまうという限界を指摘した。また国家を代表とする政治共同体そのものの、概念的・実践的な見直しが求められるとの論点を提示した。

報告に続く討論では、概念の整理における多文化主義やデニズンシップの位置づけや、civil 概念の含意、政治学と法学における「公民」認識の違いなどが議論された。またシティズンシップの追求を通して人々が求める内容の地域的な差異や、多重国籍の取得による政治的構成員資格としての国家の相対化について、事例に基づく指摘が行われた。

報告 2 錦田愛子（AA 研所員）

「無国籍のパレスチナ人 —難民・避難民をめぐる法的地位の不安定」

60 余年に及ぶアラブ・イスラエル紛争により故郷を追われたパレスチナ人は、現在も多くの居住国において国籍が付与されず、シティズンシップが認められない状態での生活を強いられている。本報告はそうした中東の一事例に基づき、難民・避難民をめぐる法的地位の不安定さや、彼らの居住国政府による受け入れ政策と政治的背景のかかわりについて考察を加えた。

パレスチナ人は 1948 年（第一次中東戦争）と 1967 年（第三次中東戦争）の二度の契機にそれぞれ難民・避難民化している。現在では、支援を行う UNRWA（国連パレスチナ救済事業機関）に登録された 470 万人余りのうち、隣国のヨルダンには 200 万人程度が居住する。ヨルダンでは大半が国籍の取得を認められているが、なかには例外的に認められず無国籍のパレスチナ人もいる。本研究ではガザ難民と呼ばれる後者の存在をとりあげ、移動の経緯や法的・社会的状態、ヨルダン政府による国民資格の階層的付与の様子などを指摘した。

ヨルダン政府が保護対象とする「国民」とは国籍をもつ者であり、実務上は旅券等への「国民番号」の記載の有無で区別している。ガザ難民やヨルダン川西岸地区在住のパレスチナ人には一時旅券が発行されるが「国民番号」の記載はない。ただしガザ難民には実質的に国内での永住権が認められており、他の外国人とは異なる扱いがされている。こうした保護や統合の度合いの差異はシティズンシップの階層化と考えられ、中東地域の実情に合わせた概念の可変的適用と考えられるのではないか。また難民、避難民、移民といった枠組み自体が、パレスチナでは法的・制度的に非常に限定された意味をもつことから、これらの用語による定義の限界性が指摘された。

報告後の議論では、シティズンシップの階層化（グラデーション）は他の地域でもみられ、日本でも永住者、特別永住者などの例があることが指摘された。またシティズンシップとナショナル・アイデンティティの関係や、シティズンシップ概念自体をどう捉えるか、など今後の研究会での議論にもつながる重要な論点が討議された。



第 1 回「移民／難民のシティズンシップ」研究会の様子